

2021年11月9日

埼玉県知事
大野元裕様

第57回埼玉県消費者大会
実行委員長 高田 美恵子

要 請 書

私たちは、春に22の県域・地域の消費者団体で実行委員会を発足させ、本日「自ら考え行動する消費者になろう ～誰ひとり取り残さない持続可能な社会を目指して～」をスローガンに掲げて、第57回埼玉県消費者大会を開催しました。コロナ禍が長期化する中ではありますが、開催にあたり埼玉県からご支援・ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

私たちは、コロナ禍が長期化し、収束が見通せない中であっても、県内の消費者団体が協力して大会を開催できるよう、新しい生活様式を取り入れ、オンラインやリモートも活用しながら、話し合いを積み重ねてまいりました。

スローガンに掲げました「誰ひとり取り残さない持続可能な社会」を実現するために、実行委員会での論議や学習を今後の活動に活かし、暮らし・地域を豊かにするために行動するとともに、消費者市民社会の実現に向けて各団体の活動を埼玉県で実践していきます。

また、私たちを取り巻く社会情勢や埼玉県の状況をもとに話し合い、大会の基調といたしましたように、すべての県民が健康で文化的な生活を営み、安心してくらす豊かな埼玉県を想像できますよう、実行委員会としてここに、国や埼玉県などの行政への要請事項をまとめましたので、ご配慮いただきますようお願い申し上げます。

記

1. SDGsとジェンダー平等の実現に関して

- (1) SDGsの啓発・普及については、「埼玉版SDGs」に積極的に取り組まれていることに敬意を表します。行政はじめ、事業者、市民団体、学校などあらゆる場で、SDGsの周知と活動推進を継続してください。
- (2) 世界経済フォーラムが公表した「ジェンダーギャップ指数」では、2021年の日本の順位は120位と、依然として低迷したままであり、各国がジェンダー平等に向けた努力を加速している中で、日本の取り組みの停滞と遅れが、国際問題・社会問題となっています。ジェンダー格差を解消し、個性と多様性を認め合える社会づくりは、企業の成長や雇用の改善、経済の発展にも貢献し、少子化の克服など子育て分野にも良い影響を与えます。従来の枠組みを超えた積極的な施策、とくに、埼玉県の幹部職員への女性登用をはじめとして、保育・福祉・消費者相談など女性の多い公設で働く職員の処遇改善やスキルアップにおいて、具体的な前進を図るようお願いします。
- (3) 選択的夫婦別姓や性自認や性的指向の多様性に関して、社会的な関心が高まっています。
 - ① 選択的夫婦別姓制度については、世論調査では約7割の国民が「法律を改めてもかまわない」と回答しています。法制度の確立に向けて、国への働きかけを行ってください。また、性自認や性的指向を理由とした差別を防止するための法の制定についても、国への働きかけを行ってください。
 - ② 性自認や性的指向の多様性については、家族や地域、職場の理解が大切です。多様性を認め合う社会を醸成するために、啓発や学習する場づくりを進めてください。とくに学校においては、教員や児童・生徒への教育、相談体制（窓口や対応者）の確立、施

設の使用方法、医療機関との連携など、きめ細やかな対応を進めてください。

- (4) コロナ禍とデジタル化に対応し、消費者団体や市民団体の活動を促進するために、県と自治体が協力して、公民館を含む公的な施設におけるデジタル対応の環境整備を進めてください。

2. 消費者行政の充実に関して

- (1) 埼玉県が、消費生活相談窓口を民間に委託せず実施していることに、心からの敬意を表します。消費者被害の防止に向け、相談体制の確保や相談員のスキルアップ等、引き続き、行政の役割として進めていただくことを求めます。
- (2) 消費者大会を含めて消費者団体が交流し学習することは、消費者教育の重要な場でもあります。また、消費者被害を防止するための見守り活動においても、身近な地域で消費者団体が活動していることが大切です。県内消費者団体の育成を図るために、埼玉県消費者大会への助成額の増額と、消費者団体研修会への委託事業の継続をお願いします。
- (3) 消費者被害の防止に向けて、地域での高齢者等見守り活動がさらに進むよう、埼玉県と消費者団体やNPO法人などとの連携した取り組みの継続をお願いします。
- (4) 来年から実施される成年年齢の引き下げを前に、若年層の消費者相談が増加傾向にある中で、高等学校における啓発講座を広げるとともに、成年前の中高生においては保護者への注意喚起や啓発の強化をお願いします。また、大学の新入生ガイダンスや職場の新人教育で啓発活動が実施されるよう、関係者への働きかけを行ってください。

3. 食の安全・安心に関して

- (1) 埼玉県内どこに住んでいても同じレベルの食品衛生監視指導がおこなわれ、食の安全が確保されるよう、保健所の体制確保をお願いします。また、県と地域の保健所の連携を密にし、人材の育成を進めてください。
- (2) 「ゲノム編集技術」を活用した食品については、消費者が正しく選択できるよう、開発の届け出と表示の義務づけを引き続き国に求めてください。また、県民への正しい情報提供、リスクコミュニケーションの積極的な実施に努めてください。
- (3) 種苗法が改正されましたが、県内農業や県内農家の営農を守り育成する立場から、埼玉県主要農作物種子条例にもとづく取り組みについては、必要な予算を確保するようお願いいたします。また、学校給食用のパンについて、県産小麦を使用できるよう研究・開発を進めてください。

4. 県民のくらしの安心に関して

- (1) コロナ禍が長期化する中、医療・福祉事業者・飲食店などの事業崩壊を招かないよう、貸付（融資）だけでない財政支援の継続をお願いします。
- (2) ワクチンの供給と接種の体制を整え、高齢者や障がいのある人、住居のない人、外国籍などが理由で、ワクチンが受けられない人を生み出さないよう、きめ細かく対応してください。
- (3) ワクチンを接種しても感染する可能性があることが明らかとなっています。感染の早期発見に向けては、PCRなど検査体制の拡充をお願いします。
- (4) この間のコロナ感染症対応の教訓をふまえ、地域医療圏構想による病床削減は中止し、医師・看護師・病床数の充実に向けて、抜本的施策の強化をお願いします。また、未知の感染症への対応ができるよう、緊急時も含めた保健所の体制強化、人材育成を進めてください。
- (5) コロナ禍の長期化のもと、今後もオンライン授業が発生することが想定されます。学校

教育は市町村（教育委員会）の業務ではありますが、通常業務の範囲を超える状況となっていることをふまえ、埼玉県としても、児童・生徒の学習を保障するため、市町村、学校間また家庭間の格差を生まないように、下記の支援をお願いします。

- ① 対面とリモート併用の授業は、運営する側の難易度が高いのが実際です。デジタルに関する教職員教育、リモートを担当する教職員の配置、通信環境の整備・向上を進めてください。
- ② 端末については無償提供（破損等の交換含む）を原則としてください。
- ③ オンライン授業も出席扱いとするよう国に要望してください。
- (6) ヤングケアラーの問題について、他県よりも早く実態把握を進めてきた先進県として、ヤングケアラー支援の法の制定など支援制度の確立に向けて、国への働きかけを強めてください。
- (7) コロナ禍でフードバンク団体の活動が一層広がりましたが、活動に掛かる費用が倍増している実態があります。生活困窮者への食料支援について、団体が行っている食料品等の受け渡し実務（とくに一時保管と輸配送）に掛かる費用の支援を検討してください。また、事業者に対して食料の提供を呼びかけていただくとともに、支援拠点の情報が市民に伝わるよう、市町村と連携して取り組み進めてください。
- (8) 各自治体が、災害時の要支援者の避難行動計画を策定できるよう、県としても支援をお願いします。あわせて、自治体における避難訓練の継続的な実施を働きかけてください。

5. 環境や地球温暖化防止に関して

- (1) 家庭部門における温室効果ガスの削減については、国の第6次エネルギー計画案において現行39%削減から、66%削減と大幅に引き上げられました。そのことを受けて、家庭部門における県や自治体の支援策について、下記の点を要望します。
 - ① 家庭部門における省エネをさらに加速するため、第6次エネルギー計画案で強調されている、断熱効果を高めるためのZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）について、積極的な支援策とそのための予算確保をお願いします。
 - ② 現行の家庭部門の支援策の拡充（補助件数上限の大幅な拡大および太陽光パネル設置を対象に指定する）をお願いします。
- (2) 自然エネルギー由来の電力を購入することが、CO2削減には有効と考えますが、消費者に適切な情報が届かないために、購入につながらないケースが推測されます。消費者が自ら選択できるよう、自然エネルギーを取り扱う事業者を消費者に広報し、情報提供を強めてください。
- (3) プラスチックの利用を削減する取り組みでは、レジ袋の有料化への業界の対応や消費者の行動変容から、適切な規制や動機付け（インセンティブ）の有効性が確かめられました。しかし、家庭向けには不要なプラスチック製品（たとえば使い捨てスプーンなど）が、いまだ当然のように無料配布されています。削減のための速やかな法整備を国に働きかけるとともに、埼玉県としても啓発にとどまらない施策を進めてください。